

大津市浜大津「明日都」内
あすとこクリニック開設・小児科医
わたなべ ごくらん
渡部 玉蘭さん



人間に対する信頼と、生きることに対する意欲があれば、どんな状態でも生きていけます。

■玉蘭さんは難民医学生第1号ということですが、いつ頃医者になろうと決心されたんですか？

現実味を帯びてきたのは高校2年の時ですね。医学部に入れなくても、検査技師や看護師とか、医療福祉関係の仕事につくつもりでした。人間として生まれ、人間の体の構造を知り、人間はどういうふうを考えてどういう行動を取るのかを勉強できるだけで、非常に有意義なことで、医者になれて良かったです。

■勉強は小さいときから好きだったんですか？

私は華僑で、サイゴンのチャイナタウンで生まれ育ったため、小さい頃からベトナム語と中国語を同じペースで勉強していました。自分の中では勉強しないと何もできないという気持ちがあり、本もたくさん読みました。両親共、教育を満足に受けられる時代に生まれていなかったの、子どもたちには教育を身に付けさせたいという思いが大きかったようです。私は子どもの頃から勉強の習慣を身につけてもらいました。だから今の自分があるんだと思いますね。両親には大変感謝しています。

■日本への移住を考えられたのは？

私は7人兄弟の末っ子で、一番上と二番目の兄はベトナム戦争の時に、



▲明日都浜大津には育児センター「ゆめっこ」や、大津市国際交流協会があることから、開業を決断。患者の母国語でも対応できるように「外国人用診療ガイド」を設置している。

私費留学で日本に来ていました。そのまま日本に残りましたが、その後、私たちの保証人になり、一家が日本に集まりました。兄が群馬県で就職をしていたので、私も高校までは群馬にいて、大学の時は神奈川県に住んでいました。滋賀県との関係は、夫が滋賀県出身で、結婚後、こちらに戻って来ました。

■国籍は日本ということですが、難民ということで手続きは難しくはなかったですか？

私は医者になる少し前に日本国籍を取ったので、比較的スムーズでした。学歴の証明や警察から頂いた表彰状、新聞に掲載された記事など、自分は何者かが分かる証明を全部かき集めて申請しました。人によって4、5年かかると聞いています。国を捨てたものとして、国籍がどんなに大事なものかを痛切に感じています。外国人で日本の永住権を持っていても、出国する際には再入国申請が必要で、手続きが大変なのです。日本の方は日本人であることのメリットを実感しないでしょうけど、すごいことです。日本国籍を放棄したら年金、保険加入、就職なども不利ですし、医療を受けるのもときにはひと苦労ですからね。

■ボートピープルの体験はご自身の生き方に大きく影響されていますか？

それは死ぬか生きるかの世界です。ボートから見る海は本当に綺麗でした。でも、明日はこの風景が見られないかも知れないというせっぱ詰まった状況だったのです。15歳で生き残りを体験して、命と自由と平和のありがたみが身に染みますね。日本にいるとなかなか危機感をもてないのですが、いざという時に耐えていけるようなメンタリティーが普段か

▲「あすとこクリニック」は「明日都&子」そして「明日と子」で未来を印象づける名前にしたと話す玉蘭さん。「人の役に立てれば嬉しい」と自身も二人の子どもを子育てしながら医者が続けている。

●プロフィール●

ベトナム難民として15歳の時に本国から小船で脱出。1ヶ月の漂流後、1979年、香港経由で来日。NGO「難民を助ける会」(AAR)の奨学金を受け聖マリアンヌ医科大学に現役合格。結婚を経て1994年から京都第二赤十字病院の小児科医になり、2002年から3年間は夫と共に渡米。米国テキサス州立大学MDアンダーソン癌センター免疫科研究員経験。2008年11月に大津市浜大津「明日都」内に「あすとこクリニック」を開設。

ら養っていれば困難を乗り越えられると思います。それは人間に対する信頼と、生きることに対する意欲です。そういう精神的強さという意味では、今の日本の社会は少し欠落して来ているように思いますね。何でもあって当たり前前の環境で仕方がないことですが…。

■日本の国の印象はどうでしたか？

来日当初は、儒教の教えに忠実に生きる人たちが周りにいて、みんな穏やかな方で驚きました。私にとって日本は住みやすい国ですが、一般的に外国人には住みやすい国であるかは疑問です。欧米では労働力を移民に頼っているので、移民の受け入れに慣れています。ですから、移住した国に住みやすいようにコミュニティも出来上がっていて、誰かが助けてくれます。日本は日本人と結婚していても、「あそこの奥さんは〇〇人」といった感じで見られることやコミュニティがないことで、孤独ですね。

私は自分が協力できることとして、英語、中国語(海南語、広東語、北京語)、ベトナム語(かなりあやしくなりましたが)、といった語学を活かして、滋賀在住の外国の方も、言葉が通じ、安心して通える医院に、また、これから海外赴任の方たちの相談もしていければと思っています。